

市長定例記者会見事項書

と き 平成23年11月30日(水) 11時 ～
ところ 庁議室（市本庁舎4階）

○鎮江市訪問について

○庁舎の節電対策の取り組み結果について

定例記者会見 平成23年11月30日(水) 11時～	
場 所 庁 議 室	
事 務 担 当 課	
所 属	職・氏 名
市民部 国際・国内交流室 (電話229-3012)	国際・国内交流室 室長 松島 明彦

鎮江市訪問について

去る11月20日から23日にかけて、津市の友好都市であります中国江蘇省の「鎮江市」を津市代表訪中団として訪問しました。

ご承知のとおり、津市と鎮江市とは、1984年(昭和59年)6月11日に友好都市提携を締結してから本年度で27年目を迎えますが、今日まで、友好訪中市民団による市民の訪問や芸術、文化、スポーツなどで相互に交流を深め、近年は三重大学への留学生の増加や市内への技術研修生の受入れなど、その分野は多岐にわたっております。

今回は、津市長に就任し初めての外交訪問であり、「許 津栄(きょしんえい Xu Jinrong)」中国共産党鎮江市委員会書記並びに「劉 捍東(りゅう かんとう Liu Handong)」鎮江市長をはじめ、江蘇大学学長など関係各位に今後の更なる交流発展に向け意見交換を行いました。

月日(曜日)	スケジュール概要	備考
11月20日(日)	09:05 JL883便で上海へ(日本時間) 10:45 上海浦東空港着(現地時間) 17:00 鎮江市着 17:30 許津栄(きょしんえい Xu Jinrong)中国共産党鎮江市委員会書記・鎮江市人民代表大会常務委员会主任他会談	
11月21日(月)	08:30～17:00 鎮江市体育活動センターほか鎮江市内基盤整備視察	
11月22日(火)	09:30 寿其(えんじゅき Yan Shouqi)江蘇大学学長会談 10:30 津市長特別講義(江蘇大学日本語学科学生) 14:30 鴻士超(こうしちょう Feng Shi Chao)鎮江市副市長(観光関係担当)他会談 17:30 劉捍東(りゅうかんとう Lui Handong)鎮江市長他会談	
11月23日(祝)	08:00 鎮江市を出発し上海へ 17:20 JL884便にて帰国(現地時間) 20:45 中部国際空港着(日本時間)	

＜中国共産党鎮江市委員会 許 津栄（きょ しんえい Xu Jinrong） 書記ほか4名との会談＞

許津栄書記発言

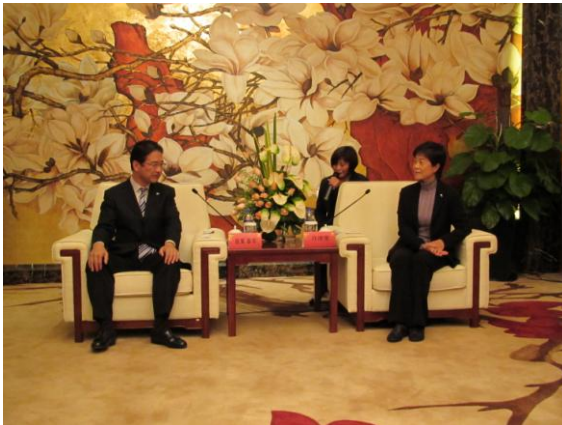
「友好都市提携から27年目を迎えて更に交流が活発になってきていることに深く感銘を受けている。鎮江市は厳しい経済情勢の中でも着実に成長を遂げている。両市の交流に対する意識は同じであると考えているので今後も同じ目的のために努力していきたい。」

津市長発言

「市長として、これまでの友好関係を大切にしながら、新しい信頼関係を個人と個人の関係で作っていききたいと考えている。」

参考：許書記は、平成16年から平成20年までは鎮江市長で、津市をご訪問いただいています。

平成16年の友好都市提携20周年記念に津市へお越しいただいた際には、20周年の記念として「麒麟石像」をお贈りいただき、現在なぎさまちのターミナルを利用される多くの皆様の出迎えやお見送りをしています。



＜鴻 士超（こうしちょうFeng Shi Chao）鎮江市副市長ほか5名＞

鴻 士超鎮江市副市長（観光関係担当）発言

「経済が持続的に発展するためにも、観光・文明都市を目指している。鎮江市は交通の便が良く、高速鉄道を利用すると北京（4時間）や上海（1時間30分）とも短時間で行き来できることから、積極的に歴史・自然・文化を生かした観光振興に取り組んでいきたい。」

鷺道富（ろ どうふ Lu Dao Fu）鎮江市旅遊協会会長発言

「津市からの観光には、鎮江市の観光ポイントを1つ組み入れ、鎮江市からの観光には津市を観光ポイントの1つに組み入れるなどして、両市の観光振興が図られれば。」

津市長発言

「観光は人がどういったところに興味を持つかを考えるのが大切である。自然が豊か

で歴史があり、そして楽しむことができる場所、そんなところに興味を持つと思う。鎮江市はその3つを備えているまちである。また、両市の魅力を積極的にPRしていただくことも大切であると考えており、ホームページからのリンクや観光協会などの団体と連携して1つ1つ積み上げていくことも大切なことから、今後もこうした会議の中で話し合っていきたいと思う。」

津市長発言

「今後も、両市の友好交流に対し、ご意見・ご協力をいただきたい。特にこれまで27年間の交流の歴史の中で、津市からは、28団940名もの友好訪中市民団の皆さんが貴市を訪問している。鎮江市からは、これまで2団30名の市民団が津市を訪問されているが、観光交流は相互交流が望ましい。新しい友好の絆として、鎮江市民の皆さんが津市を訪問される機会を拡充していただきたい。」（※注1：この会談の意を受けて、翌日に会談した劉 捍東 鎮江市長から「来年4月頃に鎮江市民100人規模を津市へ派遣したい」と具体的な回答。）

参考：本会談は、鎮江市旅遊局及び同旅遊協会（いわゆる観光部局と観光協会）と両市の友好交流を基礎として、観光資源を活用した交流にかかる意見交換



＜鎮江市 劉 捍東（りゅう かんとうLui Handong） 市長ほか4名＞

劉捍東市長発言

「前葉市長は、鎮江市の最高指導者である許許 津榮（きょ しんえい Xu Jinrong）書記と既に会談され、友好的な関係をつくられたことを誠に嬉しく思う。両市の長い交流の歴史の上に立って、市民同士で更に新しい交流関係をつくっていきましょう。また、今回の訪中に際しては、津市の実務を担当する幹部の方々にも参加いただいた。両市の今後の実務的な交流の拡大に繋がるものであると確信している。」

劉捍東市長発言

「市民レベルの交流拡大のために、来年4月頃に鎮江市民100人規模を津市へ派遣したいと考えている。」（※注1）

（※注1）前日に行われた鴻士超鎮江市副市長との観光交流にかかる会談の意を受け、具体的な回答。

劉捍東市長発言

「できれば来年に津市への訪問を実現したい」

津市長発言

「今回は、交流以来初めて、市民部長・スポーツ文化振興部長・建設部長といった津市の実務を支える部長とともに、新しい国際交流のあり方や都市基盤の整備あるいはスポーツ施設の整備に資するため、視察の機会を得ることができ感謝している。おかげをもち、鎮江市の基盤整備の進捗把握と同時にそれぞれの所管部門において一対一の信頼関係を深めることができ、大変有意義な機会となった。

今後も両市のプロジェクトを通じて情報交換や交流が行えるよう、更に交流を進めていきたい。また、鎮江市民の方々の津市訪問については、津市への理解を深めていただくとともに、市民交流を更に推進するためにも、実現に向けて具体的に進めていきたい。」

津市長発言

「これからは、これまでの交流の絆を大切にし、両市の発展に繋がるような交流を進めていきたい。中でも専門的分野の交流は、今後の両市のまちづくりを進めていくうえでも重要な役割を担うと考えている。」

参考：劉市長から、具体的な交流のあり方として、平成24年12月の完成を目指す

「鎮江市体育活動センター」の記念式典への津市側の出席依頼や、本施設などを拠点に、スポーツ・文化団体の交流や様々な分野での専門的な技術交流の提案がありました。（本施設は、総事業費200億円を投じて46ヘクタールの敷地面積に、3万2千人を収容するスタジアムや多目的展示施設に加え、公園や鎮江の文化を感じられるようなスペース等も含めた複合的施設。）

総括として、今回の津市代表訪中団としての鎮江市訪問により、今後の両市の具体的な交流について意見を交換することができたことは、これからの両市の発展、並びに友好都市交流の推進や市民の国際意識の高揚、あるいは多文化共生社会の実現に向けて、大きな意味を持つものと考えておりますことから、今後も積極的な交流の推進を図っていききたいと思っております。



<江蘇大学（こうそだいがく jiangsu university）への訪問及び日本語学科学生への特別講義>

江蘇大学の袁 寿其（えん じゅき Yan Shouqi）学長発言

「鎮江市と友好関係にある津市の三重大学との交流がますます深まるよう、ご支援をいただきたい。」

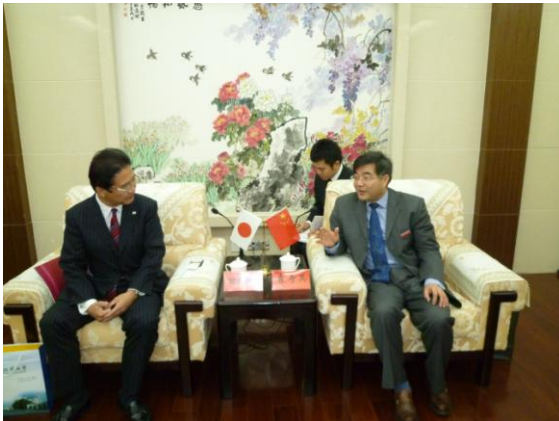
津市長発言

「大学をベースにした交流が行政の交流へと発展していけるよう、津市と江蘇大学との交流を深めていきたい。」

参考１：江蘇大学は古くから三重大学との交流があり、両市の友好都市提携のきっかけのひとつともなったもの。

参考２：津市長特別講義は、スライドを用いて、市長としての日常活動の一端をお話しさせていただきました。

参考３：懇談会の終わりに、学生の代表から、鎮江市で開催した国際交流イベントの収益金の一部を東日本大震災の義援金として手渡されました。あらためて、学生の皆さんの温かい気持ちに感謝を申し上げ、帰国後、早速、日本赤十字社津支部に連絡し受け渡し式の日程調整をしておりますので、よろしくご取材ください。



＜鎮江市体育活動センターの視察＞



鎮江市体育局よりの施設の概要説明



建設現場の視察

定例記者会見 平成23年11月30日（水）	
場 所 庁 議 室	
事 務 担 当 課	
所 属	職・氏 名
政策財務部 財産管理課 (電話229-3126)	財産管理課長 村 田 宗 秀

庁舎の節電対策の取り組み結果について

行財政改革中期実施計画（平成22年度～24年度）において、庁舎の節電への取り組み目標として設定した、平成20年度比10%以上削減を達成するため、昨年度より庁舎電力使用量の削減に取り組んでいるところです。

これに加え、本年3月発生 of 東日本大震災の影響による電力不足対策を受けて、本年度の取り組みを行ったところ、庁舎の電力使用料について、下記のとおりとなりました。

記

1 目的

行財政改革中期実施計画における庁舎電力使用量の削減目標の達成

2 期間

平成23年4月～10月

3 庁舎の節電対策の取り組み結果

(単位：K w h)

比 較 対 象		平成23年度	平成22年度	H22年度との比較
各種施設	期間	電力使用量	電力使用量	削減率
本庁舎のみ	7月～9月	571,598	765,122	25.3 % 減
	4月～10月	1,053,577	1,276,493	17.5 % 減
各地域庁舎 (9箇所)のみ	7月～9月	597,674	728,963	18.0 % 減
	4月～10月	1,206,845	1,373,781	12.2 % 減
各地域庁舎も含めた市庁舎全体	7月～9月	1,169,272	1,494,085	21.7 % 減
	4月～10月	2,260,422	2,650,274	14.7 % 減

4 平成23年度に新たに取組んだ節電対策

- 執務時に窓際の照明を消し、自然光で対応
- 執務室や廊下部分等の照明のさらなる間引き及びスイッチ操作によるこまめな消灯
- 会議室等の晴天時における照明の縮減
- 業務用コンピュータ端末の省エネ設定
- 外出・長時間離席時のコンピュータ端末の電源OFF
- 電気ポットの午後の電源OFF
- エレベーターの運転台数の縮減
- 空調運転の徹底管理及び運転時間の縮減
- ゴーヤによるグリーンカーテンの設置

5 行革目標達成のために設定した節電対策の主な取り組み

- 冷暖房運転のさらなる省エネ運行の徹底
- 各フロアの照明用蛍光管の間引き
- 1階市民ホール水銀灯の間引き
- 昼休みの執務室内消灯
- 白熱球の省エネ型蛍光灯への交換
- シーリングファン設置による空気循環の効率化
- 省エネ型エレベーターへの改修
- 省エネ型給湯器への交換
- 効率的空調管理及び徹底した温度管理のための設備改修